

令和元年7月

普及活動報告

就労継続支援A型事業所での黒大豆・ 野菜栽培を支援

(亀岡市：5月上旬～7月上旬)



「たのしくはたらく」

左：新丹波黒育苗状況

中央：定植

右：シシトウ生育状況

就労継続支援A型事業所*「たのしくはたらく」では、シシトウを初めとする野菜や黒大豆（枝豆含む）を栽培しています。

普及センターは、育苗から定植・その後の管理まで定期的に作業のポイントを説明、指導しています。また、今年度から黒大豆枝豆の栽培に挑戦する「ひろきのこ」でも、栽培計画から播種・土寄せまで指導しています。



「ひろきのこ」

左：みんなで播種（たんくろう）

中央：排水対策

右：土寄せ指導

場 所 亀岡市本梅町、畑野町

※就労継続支援A型事業所：障害者総合支援法に基づき、障害や難病のある方が雇用契約を結んだ上で働くことができる事業所

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告

京都丹波就農サポート講座第 4 回

～現地経営研修を開催～

(全域：2 日)



施設キュウリ栽培 (南丹市園部町)



露地ネギ栽培 (京丹波町)

今回の研修では、管内の農業士など先進農家を訪問し、施設キュウリ、黒大豆枝豆及び施設・露地ネギを見学して説明を受けました。

受講生からは「収量安定のために様々な工夫・配慮をされていることを学んだ」「獣害対策や作業効率化に向けて自分も実践したい」等の感想が聞かれました。

普及センターは、残り 6 回の講座を通じて、実践的な農業の基礎技術が習得できるよう支援していきます。

場 所 南丹市園部町南八田、
京丹波町水戸、蒲生
参加者数 21 名

受講生は21～53歳（平均年齢37歳）。南丹管内の実践農場研修生や就農予定者、就農間もない農業者及び障害者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告

～出荷規格を確認～ 伏見とうがらし目 合せ会を開催

(京丹波町：3・4日)



出荷規格を互いに確認

ハウス栽培に続き、露地栽培の伏見とうがらしの出荷始めに合わせ、出荷規格の確認と今後注意すべき栽培ポイントについて研修会を開催しました。普及センターから病害虫防除や尻腐れ果等の対策等について、JAからは出荷規格を説明し、生産者が出荷物を互いに確認し合いました。

生産者から規格の変更に関する質問があり、また出荷箱を用いた規格判断の工夫（下箱の切れ目が長さや太さの目安になる）などについて情報が共有されました。

普及センターはJAとともに定期的には場を巡回し、今後も引き続き支援していきます。

場 所 JA京都和知経済センター
JA京都丹波支店・瑞穂支店
出席者数 50名

令和元年 京丹波町伏見とうがらし栽培予定者 約45名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告



マニュアルに基づいて説明



農業共済組合から園芸施設共済の概要について説明

～パイプハウス台風対策の徹底を～ 直売農家へ「園芸ハウス台風対策マニュアル」を周知

(亀岡市：5日)

府の「園芸用ハウス被害防止対策周知キャンペーン」の一環として、JA京都亀岡直売部会栽培研修会において、「園芸ハウス台風対策マニュアル」に基づき台風対策を呼び掛けました。また、農業共済組合から園芸施設共済の制度について説明が行われました。

亀岡市では昨年、台風で多くのパイプハウスが被害を受けたことから、マニュアルに熱心に目を通していている参加者もあり、関心の高さがうかがえました。

今後も研修会の開催や農家組合員へのマニュアルの回覧等、台風被害防止対策の周知・普及に向け関係機関で協力して取り組む予定です。

場 所 JA京都亀岡中部支店
出席者数 39名

昨年9月の台風21号による管内のパイプハウス等被害は609棟

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告

～鳥獣被害を減らすために～ 地域ぐるみ で取り組む獣害防止勉強会を開催

(亀岡市：10日)



農林センターから現状と対策の説明

勉強会では、亀岡市東本梅町東大谷区の獣害の現状と動物の侵入路となっている場所を写真と地図で示し、対策の注意点等について説明しました。その後、集落で今後どのような対策に取り組むか、前農家組合長の新たな防止柵設置案を基に話し合いました。

「新たな柵を設置すると管理やルール作りが必要なので、区の常会を開催して話し合うべき」「南丹市域の山に柵を設置できるのか。市役所は南丹市と連携して欲しい」等、対策に前向きな意見や要望が出ました。普及センターは今後も、関係機関と連携し支援していきます。

場 所 亀岡市東本梅町

出席者数 11名

東本梅町東大谷区は南丹市と隣接しているため
市をまたぐ柵の設置が必要

令和元年 7 月

普及活動報告

～南丹地域における京都式農福連携事業～
第 5 回チャレンジ・アグリ認証(基礎課程)を開催 (全域：12日)

今回は、就労継続支援A型事業所「しぜん塾やぎ農園」と「たのしくはたらく」の通所者やスタッフが、講師をつとめる農家の実演指導に続きミニトマトの収穫と葉かき作業を行い、その後1人ずつ計量・袋詰めをしました。

最終となる次回は、収穫・袋詰めと直売所での販売実演を予定しています。

場 所 南丹市園部町
出席者数 15名



収穫作業のポイントを聞く



ハサミで収穫



計量・袋詰め



みんなで試食

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告

～小豆の安定生産に向けて～ 亀岡市西部地区で栽培研修会を開催

(亀岡市：19日)



主催者（会長）のあいさつ

JAから昨年の販売実績について説明があり、普及センターからは昨夏の高温干ばつやその後の相次ぐ台風接近など、小豆の収量低下の要因及び排水対策の重要性と、注意すべき病害虫等について解説しました。

参加者からは、「排水溝は整備したが、降雨が続く際はいつ畝立てしたらよいか」「早めに準備したので何とか播けた」など様々な状況が報告されました。普及センターは、今後も小豆の安定生産に向けて支援していきます。

場 所 JA京都亀岡西武支店
出席者数 17名



普及センターから管理のポイントを説明

平成30年産JA京都亀岡西部支店 小豆販売実績は1.15tとなり
前年比の30%にとどまった

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年7月

普及活動報告

～今後の栽培管理のポイントを確認～ 黒大豆栽培現地研修会を開催

(全域：23日)



黒大豆の摘心位置を確認

黒大豆が開花期を迎えるにあたり、園部町で研修会を開催しました。普及センターは、摘心技術の実演を行うとともに病害虫の発生状況や排水対策等の栽培管理について説明しました。また、JAからは昨年度の販売結果が報告されました。

摘心に興味を持たれる生産者も多く、その最適な位置（高さ）を確認したり、自身のは場で発生している病害虫の防除に関する質問がありました。普及センターは、今後も生産者ほ場を巡回して、助言・指導していく予定です。

場 所 南丹市園部町
出席者数 27名

昨年度 管内黒大豆栽培面積 114ha

摘心とは、開花までに地際から35～40cm程の高さで茎の先端を切り取る栽培技術。倒伏防止や、場合によっては茎数増の効果がある。

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告

雑草ホオズキ対策としてトリプルエコロジー耕うん実演会を開催

(亀岡市：25日)



耕うん深度を調整

トリプルエコロジー耕うんは、「耕うん・施肥・は種」の3作業を1行程で行うことで省力化が図られますが、併せて、耕うん深度が浅いことを利用し、雑草ホオズキ対策として農林センターの現地試験に位置付けて実施し、作業を公開しました。

この技術は、は種前にあらかじめ耕うんする必要が無いので、降雨後すぐでも作業ができるメリットについても評価されていました。

今後、普及センターでは、小豆の機械化体系による安定生産に向けて継続的に栽培指導を行っていきます。

場 所 亀岡市馬路町

出席者数 17名



作業スピードに見入る参加者

令和元年 小豆栽培面積 60ha (亀岡市)

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年7月

普及活動報告

～消費者に選ばれる商品づくりを～

若手農業者研修会を開催

(亀岡市：26日)



選ばれる商品について解説

普及センター所長による「消費者に選ばれる商品づくり」に関する講演の後、グループに分かれてお互いの商品の良い点や改善点を評価し合う互見会と意見交換を行いました。また、亀岡市が、A品・B品の選別や値付けや見せる技術について説明されました。



お互いの商品进行评估

参加者からは、「講演内容が具体的に参考になった」「季節感を大切に商品を作りたい」、互見会では「工夫されている点を参考にしたい」「詰め合わせの彩りが良い」等の声がありました。普及センターは、若手農業者が基礎技術を習得できるよう、引き続き支援していきます。

場 所 JA京都亀岡中部支店

出席者数 31名



各自の評価について意見交換

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告

～実証技術の途中経過を確認～ 黒大豆実証活動意見交換会を開催

(京丹波町：30日)



ほ場を見ながら評価や問題点を出し合う

昨年の黒大豆は、夏季の高温干ばつと9月の低温寡照により低収傾向となりましたが、一方であまり減収しなかった事例もありました。これらの事例の技術をヒントに今年度の実証ほを設け、極端な気象条件にも耐える栽培体系づくりに取り組んでいます。今回は、実証技術の一つである「土寄せ」が概ね実施されたこの時期に、生産者の感想や評価を出し合う意見交換会を開催し、技術体系の問題点や方向性を検討しました。

「早播きは規模拡大する上で必要になる」「今年の梅雨末期の雨で、思ったとおり土寄せ作業ができなかった」など意見が出され、技術を検討する上で有益な情報交換となりました。今後、最終的な目的である収量の安定化のため、開花・着莢の観察と収量調査を行い、改善技術を提案していく予定です。

昨年度 管内黒大豆栽培面積 114ha

場 所 京丹波町和知支所及び
実証ほ場（京丹波町安栖里）
出席者数 16名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 7 月

普及活動報告

～秋冬野菜の基礎技術習得に向けて～ 第 5 回 京都丹波就農サポート講座を開催 (全域：30日)



防虫ネットと不織布の違いを現物で説明

今回の講座では、露地の秋冬野菜（えびいも、カブ、タマネギ、結球野菜等）と施設野菜（軟弱野菜）の生理・生態や栽培技術のポイントについて、被覆資材の実物や写真などを交えながら説明しました。

参加者からは、「これから秋野菜を栽培するので参考になった」「ハウス栽培での土壌分析の重要性が理解できた」などの感想が聞かれました。

普及センターは、新規就農者や福祉施設の職員が農業の基礎を習得できるよう引き続き支援していきます。



ハウスの簡易な保温器具を紹介

場 所 園部総合庁舎
出席者数 14名

受講生は21～53歳（平均年齢37歳）。南丹管内の実践農場研修生や就農予定者、就農間もない農業者及び障害者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター